

緒 言

平成 13 年 (2001 年) 度に産業技術総合研究所 (産総研) の発足とともに設立された活断層研究センターは、7 年目を終えつつあり、2008 年度は最終年度となります。2006 年度には、地質分野連絡会の地震調査研究推進ワーキンググループの下に、「産総研地震研究将来検討委員会」を設け、産総研における地震研究について、研究実施者の立場から提案をまとめました。

活断層研究センターでは、平成 18 年 (2006 年) 度には、文部科学省や経済産業省、原子力安全基盤機構からの委託による調査研究、科学技術振興調整費や科学研究費補助金などの競争的資金による研究、企業との共同研究などの外部資金による研究とともに、産総研の運営費交付金による活断層や地震テクトニクス、海溝型地震の履歴や地震災害予測に関する基礎的な研究も実施しました。これらの研究成果は、国内外の学術誌における論文、産総研・地質調査総合センター・活断層研究センターのウェブサイトやニュースなど、さまざまな形で公表しております。特に、活断層データベースは、産総研の研究情報公開データベース (RIO-DB) の一部として、常に改良を続け、使いやすくなっております。

『活断層・古地震研究報告』は、地質調査総合センターの印刷物として、前年度の調査・研究結果を迅速かつ詳細に報告することを目的としています。現在 2000 部を印刷し、関係機関や研究者に配布しております。編集方針として、途中経過や暫定的な結果であっても時機を逸さずに公表すること、公的資金を使って行なった調査・研究のデータをすべて公表することを心がけており、ページ制限を設けず、図はすべてカラーとしております。昨年度からは、産総研地質情報研究部門における地震関係の調査・研究結果も収録しております。報告の内容については、活断層研究センターのチームリーダーによって構成する編集委員会で内部査読を行い、一定の質を保つよう努力しています。

『活断層・古地震研究報告』第 7 号には、17 編の報告が掲載されております。石狩・勇払平野 (北海道) の 3 次元堆積盆地構造モデルは経済産業省からの委託による長周期震動耐震性評価研究の一部です。石巻・仙台平野 (宮城県) における古津波調査は、文部科学省予算による重点的調査観測の成果です。富士川河口断層帯 (静岡県)、砺波平野断層帯・呉羽山断層帯 (富山県)、布田川・日奈久断層帯 (熊本県) の古地震調査は文部科学省による基盤的調査観測対象活断層の追加及び補完調査の成果です。また、静岡県掛川市における古地震調査は科学研究費補助金による調査、シミュレーションによる断層の連動破壊に関する研究は企業との共同研究です。警固断層周辺 (福岡県) のボーリング調査は原子力安全基盤機構からの委託研究の成果です。その他、すなわち、綾瀬川断層周辺 (埼玉県) の浅部地下構造探査、新潟県中越地震震源域の地震観測と速度構造、能登半島周辺の地質と活構造、浮島ヶ原 (静岡県) 周辺における古地震調査、紀伊半島における古地震・津波調査、応力トリガリング評価法に関する基礎解析は主に産総研の運営費交付金による研究成果です。

本報告の内容や活断層・古地震に関する調査・研究結果の公表の方法について、読者の皆様の忌憚のないご指摘やご意見を賜りたくお願い申し上げます。最後になりましたが、平成 18 年度の活断層・古地震の研究・調査に際して、関係自治体、教育委員会、地元自治会、土地所有者、諸官公庁の皆様にご理解とご協力を賜りました。篤くお礼申し上げます。

平成 19 年 11 月 30 日

活断層研究センター センター長 杉山雄一
同 上席研究員 佐竹健治